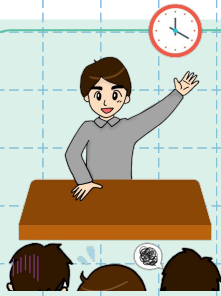


～いつもの指導を振り返り、確認してみよう！～



いつも行われている給食指導が、無意識のうちに子どもたちに負担をかけてしまうことがあります。今回の資料では、給食指導をより良いものにするためのヒントをお届けします。子どもたちが安心して楽しい給食時間を過ごせるよう、ぜひこのリストをご活用ください。理解している、出来ている場合に○をつけてみましょう。○がつかなかった箇所を改善ポイントとして、参考にしてみましょう。

行き過ぎた完食指導を防ぐ

- 完食が第一優先の指導は、子どもにプレッシャーを与え、食欲を減退させる可能性があることを理解している。
- 残食が出ることを理由に「他のクラスメイトに迷惑がかかる」などとプレッシャーをかけることは、給食を嫌いになる原因となるため、避けるべきであると理解している。
- “居残り給食”によるストレスを防ぎ、子どもがリラックスして給食に向き合えるような環境づくりに努めている。

その子の性質やペースを尊重した指導

- 偏食傾向のある子どもには、苦手な食べ物をひと口勧めることもハードルが高い場合があり、においをかいでみる、ごく少量だけ試してみるなど、段階的なアプローチが大切であることを理解している。
- 子どもの食を広げるためには、個々の食べられる量、好き嫌い、ペースを把握し、それらを踏まえた上で指導することが重要であると理解している。
- 食には個人差があるため、食べられる量や好みについて他の子どもと比較し、責めるような発言は避けるべきであることを理解している。

職員間での情報共有

- 職員間で給食指導に関する情報を共有し、指導方法に統一感を持たせることで、担任ごとの違いを減らし、子どもたちが安心して給食を楽しめる環境づくりを大切にしている。
- 子どものアレルギーに関する情報を正確かつ適切に共有できている。
- 誤嚥や窒息などの事故が起きた場合に備え、対応方法を事前に共有するなど、すぐに対応できる体制を整えている。

保護者との連携

- 食に関する問題への対応には、保護者との連携が不可欠であることを理解し、情報共有の機会を積極的に取っている。
- 保護者とのやりとりで得た情報や意見を、可能な範囲で給食指導に活かす工夫をしている。

さらに詳しい解説や
具体的な対応法については、
右下のQRコードからご覧いただけます！

詳しい解説記事は
こちら！

